

『言葉を超越したショーほど素敵なお客は少ない』

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

中国人を中心とした訪日観光客が急増して久しいものがあるが、東京や名古屋、大阪の外資系ホテルには、西欧諸国から訪れたとおぼしき外国人の姿が目立つ。

そこで、観光客の立場で日本の「夜遊び」を考えると、ニューヨークやパリ、ロンドンと比し、圧倒的に不十分なのはミュージカルやクラシックコンサート、軽音楽ライブやダンスなどの大人が深夜まで楽しめるエンターテイメントだと思う。

海外の大都市に足を向ける度に、そのような事を考えていたが、最近、音楽事務所や旅行会社が多様な取り組みを始め、成功した際の市場規模を計算しているようだ。

字幕や歌舞伎のイヤホンガイドのような仕掛けを充実させれば、寄席や日本話ミュージカル、演歌や民謡ショー

までもが楽しめそうだが、出来れば、パリの3大ナイトクラブであるクレイジー・ホースやムーラン・ルージュ、リドのような、言語を超越しても楽しめるような豪華ショーが出現すればよいと思う。アジアに目を向けても韓国やナタ、中国の雑技団など、いつでも満員御礼のエンターテイメントが存在する。

和太鼓や日本舞踊、手品ならば、セリフは多くないわけだし、これだけ、お笑い芸人がテレビを席巻しているわけだから、是非とも、外国人を本気で笑わせるようなショーがあればいいと思う。

都会の夜はレストランから居酒屋、スナック、バー、クラブ、カラオケと様々な遊び場所で、最近では日本人に限らず、外国人がガイドブックやホテルコンシェルジュの勧めで、楽しそうに過ごしている姿を散見するが、是非とも、

これぞ日本と言うような大型のショータイムが、東京オリンピックに向けて出現すれば素晴らしいことと思う。

政治が混乱し、先の見えない国情になっっているので、無条件に楽しそうなことを妄想する。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 www.ito-hospital.jp 大須診療所(名古屋分院) www.osu-shinryoujyo.jp

